

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	福岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 双葉学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
デザイン専門課程	クリエイティブデザイン学科	夜・通信	10単位	10単位	
	イノベティブデザイン学科	夜・通信	4単位	4単位	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<u>2026 実務経験者科目</u>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人双葉学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.fds.ac.jp/about/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	※	経営計画策定
非常勤	株式会社 役員	※	組織運営体制への チェック機能
(備考) ※R7. 5. 29～4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会 会終結の時まで			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 双葉学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・授業計画(シラバス)の制作過程 デザイン分野の関連企業、団体や有識者で構成される教育課程編成委員会(年3回程度)を開催し、現状の授業編成及び内容の問題点の洗い出し、デザイン現場の動向や変化を読み取り、カリキュラム及び授業内容の方針を決定したうえで、全教員、講師に授業計画(シラバス)を作成、提出していただき、教務部で内容を確認しています。 ・授業計画(シラバス)の作成・公表時期 各講師の授業計画(シラバス)の提出を2月末日まで、教務部での内容確認、修正3月末日まで、公表時期を4月1日～3日に設定しています。	
授業計画書の公表方法	2026 講義要項
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
課題評価においては、合評会などによる複数講師での評価体制を積極的に取り入れています。 各授業科目の単位認定は授業担当講師が行いますが、教務部長や専任教員が内容の確認を行っています。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本校では、成績考査規定による成績評価(S、A、B、C、Dの5段階判定)に対し、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0のポイントを付与し、各学生の成績合計ポイント ÷ 総履修単位数 = GPA(小数点第3位以下切捨て)を算出しています。 GPA分布状況を学年別(デザイン教育プログラム)にグラフ化し、学内にて掲示公表することで、学修到達度を総合的に判断できる指標を提供し、学習意欲の向上や学習計画などに資することを目的としています。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	2026 成績評価
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業規定の策定は、教育課程編成委員会に諮問し、教務部で基準を定め、運営協議会の承認を経て決定しています。 卒業の認定は、卒業規定に準じ、教務部会の卒業判定会議で行っています。 各学科の卒業に必要な修得単位数については、学生便覧、ホームページに掲載しています。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	2026 卒業認定

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	福岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 双葉学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_financial.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_financial.pdf
財産目録	https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_financial.pdf
事業報告書	https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_financial.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_financial.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン専門課程	クリエイティブデザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	100 単位	2 単位	456 単位	単位	単位	単位
			458 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180 人		140 人	3 人	9 人	23 人	32 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業科目の構成にあたっては、デザインの各領域を越えて学べるように配慮し、広い視野に立った創作活動により、個性豊かで独創的な発想のデザイン活動ができる人材の育成を目指す。

カリキュラム全体は、4つのデザインプログラムで構成される。それぞれのプログラムは課題（作品）制作に重点をおき、専門知識と技術の融合を図る。専門科目では、マーケティングからプレゼンテーションまでのプロセスを理解し表現する実践的な学習内容で構成する。IT（Information Technology）社会への対応としてコンピュータ等を積極的に各授業に取り入れ、次世代で通用するデザインテクノロジーを身に付ける。

1. 基礎デザインプログラム

基礎造形実習とデザインの基礎理論を通して、造形力、表現力など基礎デザインの能力を高める。また各専門分野の基礎知識を深め、理解力を養う。

2. 実践デザインプログラム（職業実践専門課程）

各デザイン専門分野での知識や技術を習得し、実践的な能力を養う。

3. 応用デザインプログラム

各デザイン専門分野をより実践的に学習し、様々なデザインに対応できる応用力を身につける。

■履修するデザイン教育プログラム

1 年次 … 基礎デザインプログラム

2 年次 … 実践デザインプログラム

3 年次 … 応用デザインプログラム

成績評価の基準・方法

（概要）成績の明確な評価基準を設定しています。

S: 基準を大きく超えて優秀である

A: 基準を超えて優秀である

B: 望ましい基準に達している

C: 単位を認める最低限の基準には達している

D: 基準を大きく下回る（補習可）

} (20%程度)

(50%程度)

} (30%程度)

各授業の評価と単位認定は、授業担当講師が行いますが、教務部の教員が内容の確認を行っています。

卒業・進級の認定基準
(概要) ●進級の認定基準 ・進級判定会議を経て進級させる ・各年次、32 単位以上修得すること ●卒業の認定基準 ・卒業判定会議を経て、学校長が認定する ・100 単位以上修得すること
学修支援等
(概要) ・就職、進路に関する支援体制(学内就職ガイダンスなど)の充実 ・経済的な支援体制(学納金軽減など)の充実 ・学生相談に対するサポート体制の充実 ・補講、補習などのサポート体制の構築

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
50 人 (100 %)	2 人 (4.0 %)	36 人 (72 %)	12 人 (24.0 %)
(主な就職、業界等) 設計事務所・建築業、情報通信業・デザイン業、印刷業、家具製造業、広告制作会社など			
(就職指導内容) キャリア支援課を設置し、学生の就職活動のサポートを推進しています。定期的に教務部長、担任との会議を開き、学生個別の就職希望先、デザイン能力や適性などの情報を共有し、その学生にあった就職先の紹介などに努めています。 また、学年ごとに就職への意識が異なるため、絶えず学生の動向などを把握し、必要な対策をすぐに打てるように、学校全体での支援体制を構築しています。 デザイン業界での就職活動では、ポートフォリオの完成度が大きく左右するため、全教員が学生作品のレベルアップに努めています。			
●就職活動サポートプログラム ・1 年入学次 … 入学後すぐに就活ガイダンス（就職までの流れを説明と意識付け） ・1 年次後期 … 就活準備講座（1 回開催） ・2 年次前期 … インターンシップ準備講座(1 回開催) ・2 年次後期 … 「就活実践講座」（3 回開催） 就職アンケート、ポートフォリオ、履歴書の制作 個人面談、模擬面接（ロールプレイング）実施 ・最終学年 … 4 月オリエンテーション 後期 … 就活フォロー講座 必要に応じて個人面談を随時実施し、就職活動の状況を確認しながら、個々の希望、実情に沿う指導を行い内定に繋げています。			
●インターンシッププログラム 春休み、夏休み、秋期研修期間にインターンシップを積極的に進め、最終学年では企業が希望される時期、期間に合わせるインターンシップを実施しています。			

(主な学修成果(資格・検定等))

●建築系の専攻では、授業科目の単位を取得すれば、卒業と同時に二級建築士及び木造建築士の受験資格が得られます。

●他、学修成果として、コンテストでの受賞、産学連携に取り組んでいます。

《2025 年度・入賞など》

- ・「JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025」 協賛企業特別賞・準入選
- ・「18th SHACHIHATA New Product Design Competition」 審査員賞
- ・「九州 ADC アワード 2025」 学生部門賞
- ・「ターナーアワード 2025」 専門学校優秀賞
- ・「ハーレーダビッドソンタンクデザインコンペ」 最優秀賞

《2025 年度・産学連携》

- ・福岡県「福岡スマソル醤油」 採用
- ・キンコーズ「年賀状」 採用
- ・マルスタジオ ショウウインドウデザイン採用

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
147 人	14 人	9.5%
(中途退学の主な理由) 1. メンタル的理由 2. 修学の遅れ		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学理由は、そのいずれもそれ相応な止むを得ない理由があります。日常の授業、学生生活ケアをできるだけ細かに指導することで、退学者を防ぐ努力を学校として取り組んでいます。また、具体的に退学を考えている学生に対しては、できるだけ休学を促し、長期的な視点に立った卒業、就職への取り組みを行っています。 1. メンタル的理由(病気を含む)については ストレスケアの専門医である「ストレスケア義村クリニック」に校医を委託し、サポートを行っています。カウンセラーの講演や教員に対してのメンタルヘルスケア研修なども行っています。 2. 修学の遅れについては 放課後や研修期間、夏や春の休暇期間などを利用して個別に補習を行い、単位取得に向けてサポートしています。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		デザイン専門課程	イノベティブデザイン学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	32 単位	2 単位	60 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			62 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		3 人	0 人	9 人	23 人	32 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 授業科目の構成にあたっては、デザインの各領域を越えて学べるように配慮し、広い視野に立った創作活動により、個性豊かで独創的な発想のデザイン活動ができる人材の育成を目指す。 カリキュラム全体は、4つのデザイン教育プログラムで構成される。それぞれのプログラムは課題（作品）制作に重点をおき、専門知識と技術の融合を図る。専門科目では、マーケティングからプレゼンテーションまでのプロセスを理解し表現する実践的な学習内容で構成する。IT（Information Technology）社会への対応としてコンピュータ等を積極的に各授業に取り入れ、次世代で通用するデザインテクノロジーを身に付ける。 ■履修するデザイン教育プログラム （下記のデザイン教育プログラムより1つを選択） 1 年制 … 基礎デザインプログラム … 実践デザインプログラム … 応用デザインプログラム … 研究デザインプログラム 1. 基礎デザインプログラム 基礎造形実習とデザインの基礎理論を通して、造形力、表現力など基礎デザインの能力を高める。また各専門分野の基礎知識を深め、理解力を養う。 2. 実践デザインプログラム（職業実践専門課程） 各デザイン専門分野での知識や技術を習得し、実践的な能力を養う。 3. 応用デザインプログラム 各デザイン専門分野をより実践的に学習し、様々なデザインに対応できる応用力を身につける。 4. 研究デザインプログラム 各デザイン専門分野を総合的な視点で捉えたマネジメント、プロデュースについて学びながら、専門領域の研究を行う。	

成績評価の基準・方法
(概要) 成績の明確な評価基準を設定しています。 S: 基準を大きく超えて優秀である A: 基準を超えて優秀である B: 望ましい基準に達している C: 単位を認める最低限の基準には達している D: 基準を大きく下回る(補習可) } (20%程度) } (50%程度) } (30%程度) 各授業の評価と単位認定は、授業担当講師が行いますが、教務部の教員が内容の確認を行っています。
卒業・進級の認定基準
(概要) ●卒業の認定基準 - 卒業判定会議を経て、学校長が認定する 32 単位以上修得すること
学修支援等
(概要) - 就職、進路に関する支援体制(学内就職ガイダンスなど)の充実 - 経済的な支援体制(学納金軽減など)の充実 - 学生相談に対するサポート体制の充実 - 補講、補習などのサポート体制の構築

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1 人 (100 %)	0 人 (0 %)	1 人 (100 %)	0 人 (0 %)
(主な就職、業界等) デザイン事務所			
(就職指導内容) キャリア支援課を設置し、学生の就職活動のサポートを推進しています。定期的に教務部長、担任との会議を開き、学生個別の就職希望先、デザイン能力や適性などの情報を共有し、その学生にあった就職先の紹介などに努めています。また、学年ごとに就職への意識が違うため、絶えず学生の動向などを把握し、必要な対策をすぐに打てるように、学校全体での支援体制を構築しています。デザイン業界での就職活動では、ポートフォリオの完成度が大きく左右するため、全教員が学生作品のレベルアップに努めています。 ●就職活動サポートプログラム 4 月… オリエンテーション 必要に応じて個人面談を随時実施し、就職活動の状況を確認しながら、個々の希望、実情に沿う指導を行い内定に繋げています。			

●インターンシッププログラム 春休み、夏休み、秋期研修期間にインターンシップを積極的に進め、企業が希望される時期、期間に合わせるインターンシップを実施しています。
(主な学修成果(資格・検定等)) ●他、学修成果として、コンテストでの受賞、産学連携に取り組んでいます。 《2025年度・入賞など》 ・「JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025」 協賛企業特別賞・準入選 ・「18th SHACHIHATA New Product Design Competition」 審査員賞 ・「九州 ADC アワード 2025」 学生部門賞 ・「ターナーアワード 2025」 専門学校優秀賞 ・「ハーレーダビッドソンタンクデザインコンペ」 最優秀賞 《2025年度・産学連携》 ・福岡県「福岡スマソル醤油」 採用 ・キンコーズ「年賀状」 採用 ・マルスタジオ ショウウィンドウデザイン採用
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2 人	1 人	50%
(中途退学の主な理由) 1. 学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学理由は、そのいずれもそれ相応な止むを得ない理由があります。日常の授業、学生生活ケアをできるだけ細かに指導することで、退学者を防ぐ努力を学校として取り組んでいます。また、具体的に退学を考えている学生に対しては、できるだけ休学を促し、長期的な視点に立った卒業、就職への取り組みを行っています。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
クリエイティブ デザイン学科	100,000 円	(初年度) 700,000 円 (2 年次降) 800,000 円	310,000 円	維持管理費・ 施設・設備費
イノベティ ブデザイン学科	100,000 円	500,000 円～ 800,000 円	310,000 円	維持管理費・ 施設・設備費
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_jikohyouka_houkoku.pdf		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
1. 学校の教育目標、計画に沿った取組の達成状況、学校運営等への取組が適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。 2. 自己点検評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から規程に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」を実施する。 3. 主な評価項目としては、教育活動に関すること、学校運営・管理に関すること、施設・設備に関すること、学生支援に関すること、将来計画に関すること、財政に関することなどとする。 4. 当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果や教育課程編成委員会の助言、意見などを年度末までに検討協議、計画をした上で学校長の責任において、4 月以降、教育活動・学校運営等の改善に活用する。 5. 学校関係者評価委員会の構成は、5 名以上 7 名以内で、企業、教育関係者、卒業生から選出しています。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社総研 代表取締役	2026/4/1～2027/3/31	企業

株式会社イングラ 代表取締役	2026/4/1～2027/3/31	企業(デザイン業界)
九州大学名誉教授 マルチ映像研究スタジオ わきすた	2026/4/1～2027/3/31	教育関係者
7mile 代表	2026/4/1～2027/3/31	企業 (カウンセリング)
NPO法人FUKUOKA デザインリーグ 理事長	2026/4/1～2027/3/31	企業 (デザイン業界団体)
株式会社ジーエークレアス 代表取締役	2026/4/1～2027/3/31	企業 (就職先)
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fds.ac.jp/wp/wp-content/themes/fds/pdf/2025_kankeisya_houkoku.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fds.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H140313000644
学校名 (〇〇大学 等)	福岡デザイン専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人双葉学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		39 人 (17) 人	37 人 (16) 人	39 人 (17) 人
内 訳	第Ⅰ区分	15 人	13 人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅱ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅲ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	- 人	- 人	
	区分外（多子世帯）	- 人	- 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人 (0) 人
合計（年間）				39 人 (17) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	- 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	- 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	人	人
計	- 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0 人	前半期	後半期
		人	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	-人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-人	人	人
計	-人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。